

トピックス

◆千葉みなと旅客船運航が好評です

千葉みなと旅客船さん橋は、4月15日の供用開始以降、3隻の旅客船が係留しほぼ毎日、クルーズを実施しております。また、高速ジェット船による伊豆大島へのクルーズや花火大会見学クルーズ、ジャズクルーズなどの特別企画による運航も実施されております。この4月から8月の間に、約20,000の方が利用されております。

その他、7月28日～9月19日に実施された千葉県・千葉市・船橋市の連携による「東京湾ツーリズム旅客船運航実証実験」では、ツアーに参加した観光客は1,000名を超え一定程度の需要が確認されました。

※日々の運航情報、コースなど詳細は千葉市ホームページ (city.chiba.jp) の「千葉市旅客船運航情報」をご参照ください。



◆幻想的な工場夜景も魅力的です！



近年、工場の夜景を見て楽しむ“工場萌え”が全国的な話題となっており、陸上や海上から工場夜景を鑑賞するツアーが人気を博しております。こうしたツアーは2010年頃から、川崎市や北海道室蘭市など港湾に工業施設のある地域で「観光資源に」として広まってきました。

千葉市においても、かねてより実証実験として各種ツアーを企画してきた他、今年度より「全国工場夜景サミット」に加入し会員となるなど取り組みを強化しております。

また、工場夜景の魅力を広くPRする「工場夜景・美の祭典」フォトコンテストに、本年から新たに「千葉市」部門が加わり、開催されることとなりました。(平成24年に始まり、今回で5回目の開催となるコンテストです。左写真参照。)

本テーマを議会で初めて扱ったのが8年前のことであり、こうした取り組みに発展したことをうれしく思います。

※工場夜景クルーズは、50～70分の運行時間で大人一人(中高生含む)1,500～2,000円となっております。(小人は半額。)

2020

4年後の舞台は千葉市!

●政策提言から3年

この夏、ブラジル・リオで開催されたオリンピック・パラリンピック。連日にわたり繰り広げられた涙と感動のドラマに胸を熱くされた方も多いのではないのでしょうか。そしていよいよ4年後には、その夢の舞台が日本へ、私たちの千葉市へやってまいります!

私自身、3年前の東京招致決定の一週間後には「東京オリンピック・パラリンピックと千葉市をつなぐ30の提言」の素案を書きあげるとともに約一ヶ月後には公明党市議団として市長に提言書として提出を致しました。

千葉市ではこの提言を踏まえ、現在様々な準備が進められております。昨今の主な取り組みを以下にご紹介致します。



ビジョンカーによるパブリックビューイング

●障がい者スポーツの振興を強化

車椅子競技における車椅子の圧倒的シェアを誇るメーカーが千葉市にあることも活かし、千葉市では障がい者スポーツの振興に力を入れております。

この9月には、機運醸成や障がい者スポーツの普及啓発を図るため「パラスポーツ応援イベント」が各地で開催されました。今後も随時開催予定です。

またこの度、かねてより提案をしてきた車椅子バスケットボールのナショナルトレーニングセンター(トップアスリートの強化活動拠点施設)に千葉市が指定されました。

その他、今後は小中学生への「オリンピック・パラリンピック教育」なども更に充実されていく予定です。



海浜幕張駅前で開催されたパラスポーツイベントの様

●おもてなし“力”を向上!

この度、15言語で市内の201店舗・施設を外国人観光客に紹介するウェブサイト「千葉市おもてなしSHOPガイド」を開設しました。飲食店側が外国語のメニューを無料で簡単に作成できる機能も備えております。現在は、「千葉駅・千葉みなと駅」「海浜幕張」の二つのエリアの店を優先的に紹介しておりますが、今後は「蘇我駅」など他の地域にも広げていく予定です。また、外国客の受入態勢(メニュー、看板、パンフレットなど)を整備する事業者に対し、補助金を支給する事業も開始しました。是非ご活用ください!

その他、「京葉線・りんかい線の相互直通運転」については、利用者らに1日あたり約5,200万円のメリットがあること、沿線の住宅地価が総額約385億円上昇すること、税収効果が年間約6億円にのぼることなどの効果分析が公表されました。実現に向け、引き続き努力してまいります!

市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員

酒井 伸二

〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14

Tel/Fax.043-268-7120

http://chibashi.com http://www.facebook.com/sakai.cc e-mail:sakai@chibashi.com



【千葉市で開催される競技】

オリンピック(3競技):レスリング、フェンシング、テコンドー
 パラリンピック(4競技):車椅子フェンシング、テコンドー、ゴールボール、シッティングバレーボール

※その他、現時点でオランダチームの事前キャンプも決定。今後も更なる招致が進む可能性があります。

2016年 第3回定例会を終えて 複数の政策提案が結実!



平成28年 第3回定例会が、去る9月5日から10月3日までの会期で開催されました。平成27年度の決算審査が最重要議題であり、最終的に認定はされたものの、認定にあたって各分野・各テーマごとに様々な議論が繰り広げられました。また、これまでの議会論戦において主張してきた、政策提案、要望等がいくつか実を結びつつあることも確認できました。その一端を以下にご紹介します。

子どもルーム待機児童解消へ 緊急3ヵ年対策を決定

社会経済状況の変化による女性の就業志向の高まりや働き方の多様化等により、仕事と子育ての両立支援の重要性が高まっている中、子どもルームの必要性が高い低学年児童(小学生1～3年生)を主たる対象として、現在待機児童が多く、今後も児童数の増加が見込まれる学校

を中心に、余裕教室の改修及びリース建物の建設等のほか受入枠の拡大(計1,220名分)により、3ヵ年で待機児童数の大幅な削減を目指すものです。

整備手法	H29年4月～	H30年4月～	H31年4月～
教室改修	1か所 40人分	4か所 170人分	6か所 260人分
リース建物 建設	4か所 180人分	3か所 180人分	3か所 180人分
テナント賃借	—	1か所 40人分	—
人員追加配置による受入枠拡大	3か所 93人分	2か所 40人分	2か所 40人分
計	8か所 310人分	10か所 430人分	11か所 480人分

市HPに掲載されている資料

編集メモ

本件については、市民の皆さまより早期の改善を求める声を多数頂いておりました。そこで、昨年の統一選直後の第二回定例会において、「子どもルームにおける待機児童数は増加傾向にあり、一向に目途がたちそうにな

い]現状を明らかにするとともに、これまでとは異なるアプローチを行うなど執念を持った対応を求めていたところ。今回の取組みは、(そうした視点に立った)抜本的解決に向けた一つの英断であり、評価しております。

蘇我駅周辺のジェフカラー化

ジェフユナイテッドのホームタウンとして特色を活かし、蘇我駅周辺と市民、ジェフの結びつきを強くするための施策として、駅前バスシェルター屋根及びエレベーター外壁へのラッピング、歩道への案内標示シート

までの歩道において、車止めへのジェフデザインの反射シール及び3色ロープの取り付けが市民協働で実施されました。

アリーナで試合が開催される日は、多くの来場者でにぎわいます。まちの活性化やホームタウンらしい雰囲気づくりの意義からも、「アリーナまでの通り(ストリート)一体をジェフカラーに!」との要望が形となったものです。



バスシェルター屋根へのラッピング



市民協働による3色ロープ取り付け

救急体制の強化～「応急手当感謝カード」の配布

救急現場では、救急車の到着を待たずに、近くに居合わせた方(バイスタンダー)による応急手当が行われていますが、現場へ到着した救急隊は傷病者の救命を第一に活動するため、その際に協力頂いたバイスタンダーに対して御礼の言葉をかけることが精一杯とされております。

また、応急手当についての市民アンケートでは、「応急手当に自信がない」「感染症が心配」「応急手当を行うことで容態を悪化させてしまったら」などと答えた方が半数以上でありました。

そのため、救急現場で勇気をもって応急手当をされた方への感謝の気持ちと、事後の心的ストレスなどをサポートする相談窓口を掲載した「応急手当感謝カード」を救急現場で救急隊や消防隊から配布することとなりました。

千葉市では、バイスタンダー日本一を掲げ、救命講習受講者の拡大に力を注いでおりますが、その取組

みを評価しつつ、「バイスタンダーの心的ケアが重要」であるとして、昨年度の議会において本事業の実施を提案致しました。早期に事業化されたことを評価しております。



応急手当感謝カード

千葉市の指定廃棄物はゼロに

千葉県下の指定廃棄物(一定の放射性物質を含む廃棄物)に関する長期管理施設の問題については、昨年4月に中央区蘇我町の東京電力千葉火力発電所用地の一部がその候補地に選定されておりましたが、選定の経過及び千葉県下各自治体での現在の保管状況について調査する中で、「千葉県下の指定廃棄物については、各自治体による分散保管が最も妥当である」との主張をしてまいりました。千葉市及び千葉市議会においても同様の訴えを国にしてきたところ。また、昨年末には、市長から環境副大臣に対し「詳細調査の

受け入れはできない]旨の回答を致しました。

さて本年に入り、去る6月22日には県下の指定廃棄物合計約3,700トンの内、千葉市の指定廃棄物7.7トンにつき放射能濃度測定を実施したところ、国の定める基準(8,000ベクレル/kg)を下回っていることが判明しました。市はこの結果を受け、指定取り消しの申出書を環境省に提出。7月22日に全国初となる「指定解除」の通知書を環境省より受領致しました。

市長は通知受領後の記者会見において「指定廃棄物がなくなった千葉市に、全県(下)の指定廃棄物を集め保管するのは、到底市民の理解が得られない。」とし、改めて県内処分場の受け入れ拒否を表明しました。(本来、「千葉県市町村長会議」を経て決定されたことでもあるだけに、環境省側としては現時点で方針に変更はなく継続協議を希望しており、市長側も対話の再開には応じる姿勢を見せております。)以上のような状況から、本件に関するこれ以上の進展は考えにくいと言えます。引き続き、皆さまからのご意見をお待ちしております。



新港清掃工場における放射能濃度測定の様子

